

オウム真理教問題対策（状況）について

1 現地の状況

信者の居住状況について、関係機関からの情報では、GSハイム鳥山（南鳥山6-30-19）に「ひかりの輪」信者5名程度が居住している模様である。

2 鳥山地域オウム真理教対策住民協議会の活動状況

（1）会議の開催状況

第186回実行委員会（第250回事務局会議合同）

日時 令和6年7月2日（火）午後1時30分～3時25分

（2）監視活動

町会・自治会をはじめ、商店街やPTAなどの地域住民による現地の監視活動を、猛暑の中でも熱中症対策を講じながら毎日継続して実施している。

（3）広報活動

住民協議会ニュース第209号（7/15発行）を全区版で発行した。今後、年度内に全区版の住民協議会ニュースを3回発行する予定である。

（4）募金活動

オウム問題の風化防止や活動資金の確保に向け、町会・自治会や商店街などのイベントや祭り会場に出向いて募金活動に取り組んでいる。

3 オウム真理教対策関係市区町連絡会総会

下記の通りWeb会議形式で開催され、区職員3名が参加した。

日時 令和6年6月26日（水）午後2時～3時

内容 （1）令和5年度の活動報告及び決算、令和6年度の活動方針及び予算について協議・決定した。

（2）令和6年度役員の改選

会長 足立区

副会長 愛知県岩倉市

監事 埼玉県越谷市、大阪府吹田市

4 「Aleph」に対する公安調査庁の再発防止処分の請求及び決定について

団体規制法に基づく観察処分の対象である「Aleph」は、同法が定める報告事項の一部を報告していないため、無差別大量殺人行為に及ぶ危険性の程度を把握することが困難な状況にあるとして、令和6年3月21日から9月20日の間、再発防止処分下にある。

この間、公安調査庁は「Aleph」に対して是正指導を行ったが応じないため、7月22日に公安審査委員会に4度目となる再発防止処분을請求し、9月2日、同処分が決定した。

処分期間 令和6年9月21日から6か月間

処分内容 全国16施設の一部（12施設）または全部（4施設）の使用の禁止
（一部使用禁止施設の内、1施設の使用禁止場所を拡張した）
金品その他の財産上の利益の贈与を受けることの禁止

オウム真理教対策 第48回 抗議デモ・学習会を開催



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会



令和6年5月11日(土)、烏山地域オウム真理教対策住民協議会は、抗議デモと学習会を実施しました。烏山地域の町会・自治会の皆さんを中心に、世田谷区長や世田谷区議会議員・都議会議員・衆議院議員の皆さん、そして足立区と甲賀市の住民協議会の方々の参加もあり総勢277名となりました。午後1時30分、烏山区民センター前広場に参集し、抗議文を読み上げて抗議の意思を強く宣言した後に、シュプレヒコールを高々とあげてデモ行進を行いました。ひかりの輪の施設前では、デモ隊の通過に合わせて抗議文を読み上げ、郵便受けに投函して来しました。

デモ行進の後、午後2時30分から烏山区民会館ホールで学習会を開催しました。今回は『再発防止処分の有効性』と題して、公安調査庁の職員に講演していただきました。

内容は、オウム真理教の現況として、主流派のアレフ、山田らの集団と上祐派のひかりの輪の活動状況から始まり、全体の組織構成・資産状況が示されました。

さらに、今年2月に実施したひかりの輪への立ち入り調査でわかった活動状況や施設内の写真から、麻原脱却と言いつつも実は麻原の指示に従っている状況が詳しく示されました。

また、アレフの施設内の写真では、祭壇の中央に仏画などと一緒に麻原の写真が据えており、麻原への崇拜が続く現状に恐怖を覚えます。

抗議文

アレフの代表だった上祐が、ひかりの輪に分裂して17年になる。アレフとは違うと言うが、我々は信じていない。ひかりの輪は、アレフ時代からの信者で構成しており、かつて麻原が、教団存続のために別の団体を作るよう指示を出し、指示通りに上祐が設立したものだ。麻原脱却を見せかけているが、本質は何も変わらない。

6500人もの被害者を出した地下鉄サリン事件を、我々は絶対に忘れることはない。監視活動をやめることもない。成城警察署、公安調査庁もそれぞれ詰所を持って監視している。僅かな兆候も見逃さない。

ひかりの輪は、セミナーの開催や聖地巡礼を繰り返している。更に若者をターゲットに、ネットを使い動画配信やSNSで新たな信者獲得を図っている。

上祐は悪あがきをやめて一刻も早くひかりの輪を解散し、信者を自由にすべきだ。解散後の生活を考えるなら、その相談に乗る用意はある。

ひかりの輪が活動を続けるかぎり、我々は解散・解体するまで粘り強く闘い続けることを宣言する。

令和6年5月11日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬 一行

さらに公安調査庁の取り組みとして、観察処分の決定経緯や今年1月に8回目の期間更新が決定したことや、アレフに対する昨年3月からの再発防止処分の経緯や取り組み状況、2回、3回と処分を重ねる度に使用禁止の施設や場所を増やして取り組んでいることなどの説明がありました。再発防止処分によりオンラインなどでの活動が増え、行動が見えにくくなっている事にも苦慮しているとのことでした。

また質疑応答では、ロシアでのオウム真理教の活動についての質問があり、活動は禁止されており勉強会をしても禁固15年になった例もあるとのことでした。

これからも、監視活動や抗議デモ・学習会は、オウムの解散まで絶対に止めることは出来ないと感じ強く感じた学習会になりました。

第48回 抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 令和6年5月11日（土）

【回答者・住所】 烏山地域(57)：〔北烏山(18)・南烏山(12)・給田(3)・粕谷(5)・上祖師谷(18)・上北沢(0)・八幡山(1)〕

(86名)

上記以外の世田谷区(12)：〔祖師谷(3)・桜丘(1)・弦巻(1)・代沢(1)・太子堂(1)・経堂(1)・成城(1)・砧(1)・不明(2)〕

その他の地域(17)：〔足立区(3)・江戸川区(1)・渋谷区(1)・杉並区(1)・練馬区(1)・目黒区(1)・稲城市(1)・

狛江市(3)・町田市(1)・府中市(1)・川崎市(1)・甲賀市(2)〕

() 内は人数

～以下、学習会アンケートから一部抜粋～

【学習会への感想】

- オウムの現況について報告があり、抗議デモ等により活動を抑えている効果が理解できて重要性を感じた。オンラインでの活動が増え、実態が確認できなくなる状況は心配。
- 一步一步の活動で今があるのだと知りました。カルトは、どんなことがあってもカルト、形を変えても何も変わらない、アレフもひかりの輪も同じ。再発防止処分も永遠に続けてくださったら幸いです。特に、事件を知らない若い人が不幸にならないように願っている。
- 立ち入り調査ができるだけでも効果大、抑止力大だと思う。
- 時間が過ぎると、オウムの凶悪行為が忘れ去られてしまう。オウム残党が、また活動を活発することなく、消滅に追い込むには必要な学習会だと思う。
- オウム関連のニュースが少なくなっているの、こうした学習会は大切だと思います。
- かなり再発防止処分は有効な手法で引き続き注視し、即時性を高める必要があると思う。
- ひかりの輪に関する裁判や上祐の活動内容の詳細などは一般には多く語られていないため、今回参加してよかった。

【住民協議会への感想】

- 長年にわたり、活動していることに敬意を表します。

- 人材的にも財政的にも地域での応援が必要だと思う。
- 皆様の協力の下にあるのだと分かりました。私もよそ者なのに、世田谷区の方が優しく接して下さり嬉しかったし、皆様とても熱く活動していて素晴らしいかったです。これからも長い闘いですが応援しています。
- 一人一人の声を伝えていく、意思を表明していく、大切な活動だと思いました。
- 私も職場や地域の防災活動をしています、ここでは、オウム対策も防災の大きな柱になっていると思います。ご苦労を強く感じています。今後もこの活動に参加したいです。
- 何とか若者にも聞いてもらいたい。今後も頑張ってください。
- シュプレヒコールは、いつにも増して迫力があり良かったです。提案ですが、商店街では「ひかりの輪が何十年も烏山に居続けていることや解散まで活動をしていること」を伝え、居住マンションの前ではシュプレヒコールを信者に向けて行くと、もっと効果的で意味あるものになると思います。
- 地下鉄サリン事件から約30年が経ち、事件を知らない世代が増えている。絶対に風化させないこのような活動が必要である。
- 住民への認知活動が少ない。PTAとか学校でやるべき、住民の危機感が少ない。

募金活動でのエピソード

昨年5月に、新型コロナウイルスが5類に移行され、各地域では、以前のように賑やかなイベントが開催されるようになりました。主催者のご協力、私達も住民協議会の活動資金を得るための募金活動を復活させました。どのイベントに参加しても私達を気持ちよく迎えて下さり「ご苦労様です」と多くの方にお声をかけていただきました。いつも温かいお心遣いに心より感謝しております。

今年2月の「からすやま新年子どもまつり」でも受付に募金箱と「オウム反対」ののぼり旗を掲げました。小学生のグループが「僕達、オウムの事を知っているから募金するね!」と言って可愛いお財布から募金をしてくれました。私達も思いがけない出来事に慌てて、模擬店やたくさん遊べるブースもあるので「先に楽しんでからで良いのよ!」と伝えると「大丈夫、もういっぱい楽しんだから!」と笑顔で答えてくれました。なんと、他にも「子どもまつり」とは言え、同じようなグループが募金してくれたのです。きっと、親御さんが、オウムについてお話し下さっているのだと思いました。子ども達の気持ちと格好良さに感動しました。

募金活動を通して、ご支援して下さる方との触れ合いから様々なエピソードが生まれます。また、「オウム反対」の旗を掲げて活動

することで、オウム真理教が引き起こした事件の風化を防ぎたいと願っています。この活動は、いつも地域の皆様に励まされ、元気をいただき、絆を深める大切な活動になっています。

今年度も、地域のイベントで募金活動に参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞご協力を宜しくお願い申し上げます。

【令和5年度 募金活動報告】

			(円)
5/11	抗議デモ・学習会	8,885	
7/30	サマーフェスティバル	12,590	
8/4～5	からすやま夏まつり	15,044	
8/9～10	給田納涼盆踊り大会	13,851	
8/25～26	お笑い夏まつり	18,320	
8/27	夏休み親子木工まつり	3,936	
8/27	親子夕涼み会	3,105	
9/23～24	烏山秋まつり	6,349	
10/14～15	烏山区民センター文化祭	4,315	
10/22	烏山地域蘆花まつり	20,010	
11/11	抗議デモ・学習会	6,666	
1/18	烏山・給田地区合同新年会	3,639	
2/11	からすやま新年子どもまつり	4,910	
3/17	三世代地域交流もちつき大会	11,332	
3/30～31	上北沢さくらまつり	36,028	

協議会ホームページアドレス <https://www.karasuyama-kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

